

令和2年度（2020年度）日本音楽教育学会 関東地区例会のご案内

令和2年度の関東地区例会を下記の要領でオンラインにより開催します。コロナ禍による困難な状況が続きますが、会員の研究交流と若手研究者の育成を図りながら、皆様とともに希望をもって進んで行きたいと思っております。年度末のお忙しい時期と存じますが、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

第Ⅰ部 大学院生の研究発表会

内容：関東地区大学院生会員による修士論文・博士論文の研究発表および研究中間報告

開催期間：2021年3月17日（水）～25日（木）

開催方法：オンライン（クラウドストレージを使って研究発表の内容を公開）

*参加者からのコメントをオンラインフォームで受け付け、発表者に伝えるという形式で進める予定です。

*参加方法につきましては、参加申込み受付後にメールでご案内します。

*大学院生会員にはメールで発表者募集についてお知らせします。

第Ⅱ部 シンポジウム

テーマ：音楽を通して多様な子どもたちをつなぐ—学校と社会における多文化共生をめざして—

開催日時：2021年3月20日（春分の日）13:00～15:30（質疑応答の時間を取ります。）

開催方法：オンライン（Zoom 予定）

（テーマ設定の趣旨）

2019年4月に改正出入国管理法が施行され、教育現場ではこれからますます「外国につながるのある児童・生徒」が増えていく状況にあります。この現状に対して、「多様な子どもたちをどうつなぐか」という課題に様々な立場から取り組んでいかなければなりません。学校や地域で多文化共生の施策が進められる中、音楽が果たす役割について必ずしも共通認識されているとは言えません。

本シンポジウムではお二人のパネリストからお話を伺いながら、課題に対する認識を深め、音楽を通して教育現場で何ができるかを、皆さんといっしょに考えていきたいと思っております。

パネリスト

○鈴木恵梨香氏（浜松国際交流協会）

静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科修了（専攻は多文化共生、アートマネジメント）後、2013年より公益財団法人浜松国際交流協会職員。担当事業は、国際交流・理解のイベント・講座・セミナー企画、外国にルーツを持つ若者の活動支援、学校等への出前講座コーディネーター、調査・視察・職場体験受け入れ等。論文に「浜松における音楽を通じた多文化共生教育のあり方」（『文化政策研究』第7号、2013）、共著に「外国にルーツを持つ若者たちが社会を変える」（『部落解放』748号、2017）。日本文化政策学会会員、日本アートマネジメント学会会員。

○磯田三津子氏（埼玉大学）

東京学芸大学連合学校教育学研究科単位取得満期退学。博士（教育学）。京都橘大学専任講師を経て埼玉大学教育学部准教授。専門は教育方法学、在日外国人児童生徒教育、多文化教育。著書に、『音楽教育と多文化主義』（三学出版、2010）、『京都市の外国人児童生徒教育と多文化共生—在日コリアンの子どもたちをめぐる教育実践』（明石書店、2021）、Difference and Division in Music Education, (Routledge, 2020, 共著)など。日本音楽教育学会会員。

コーディネーター・司会 中嶋俊夫（横浜国立大学）

*参加方法につきましては、参加申込み受付後にメールでご案内します。

【参加申込み】

下記 URL から登録フォームにアクセスし、3月15日までに参加申込みを行ってください。各項目にご記入後に「送信」ボタンをクリックしてください。

<https://forms.gle/WbgqzRzzPNcVcg6z8>

以上

（問合せ先）関東地区担当理事 中嶋俊夫（横浜国立大学）

メール：nakajima-toshio-cy@ynu.ac.jp